

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101802		
法人名	株式会社サポート		
事業所名	サポートピア葉山【しづか】		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町高田郷2179番地1		
自己評価作成日	令和3年8月16日	外部評価結果確定日	令和4年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4271101802-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

業務優先ではなく、ご入居者のいままでの人生で培った価値観・人生観を尊重するケアを第一に考えている。年々介護度も上がり認知機能の低下、ADLの低下もあるが残存機能を活かし個別ケアを実施している。また、今までの生活習慣を大切にしながらご入居者が安心して自分らしい生活ができるよう支援に努めている。特にコロナ渦の中、外出などでできていないが定期受診時は、必ずご入居者と一緒に受診し一緒に寄り添い気分転換を図っている。また、医療との連携を図り些細な状況でも主治医へ連絡し病状の早期発見に努めている。看取り介護に関しては積極的に取り組んでおり、ご入居者・ご家族も安心して頂けるようしている。施設内に関してはとても明るく、広々とした空間で生活を送って頂いており、庭園には四季折々の樹木を植えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の「利用者第一主義:利用者の立場に立った施設づくり・人づくり・サービスを目指す」に基づいた利用者への支援が行われている。毎日の細やかな記録によりご家族や市町村、医療機関への情報提供ができ、理解を深めてもらっている。またこれにより職員間も加わり、情報共有により各機関との連携による支援の向上につながっている。看取りも行われており、終末期に携わった多くの経験値と良好な医療機関との連携により、ご家族の気持ちに沿った看取り介護がなされている。広い中庭にたくさんの樹木があり、共有空間にやさしい日当たりの明るさと落ち着いた景色をもたらしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念や方針を各ユニット及び応接室に掲示し常に見えるようにしている。また、朝礼などで復唱し意思統一を図る。	利用者第一主義の理念に基づくサービスの実践のために、接遇マナー、介護技術、医療に関する研修を行っている。特に重要としているのが、接遇マナーでご入居者への言葉遣いについて、日々の支援のなかで不適切と思われるときは職員間および施設長が会議や個別面談などで指摘し、常に振り返りとレベルアップにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の前は近隣の幼稚園園児を招き、クリスマス会を行ったり看護学生の実習施設として交流を図っていた。	自治会に加入しており地域清掃など参加している。また雪の日に凍結を防ぐ道路への作業を近隣の分まで行い感謝されたこともあった。グループホーム夏祭りイベント案内通知を出し、近隣の方が参加され好評だったとのこと。毎年近くの大学から看護学生の実習を受け入れており交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族に対して認知症に対する理解やアドバイスをを行っている。以前は認知症サポーター講座の案内などを出していた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ2か月に1回運営推進会議を開催している。コロナの影響で近隣(自治会長や民生委員)の方は控えられているがご家族代、長与町役場職員などから参加をしていただき、質疑応答を設け意見交換などを行いサービス向上に努めている。コロナの影響で書面での開催などで意見交換なども行っている。	2か月に1回運営推進会議を開催している。長与町役場職員、ご家族代表が参加し、グループホームからの報告、質疑応答となっている。報告内容が詳細であり、透明性があるので、参加者は運営の現状についてよく理解している。一方自治会からの参加はコロナ禍の影響や立地環境などからあまりない現状である。	コロナ禍の影響により、消防署立ち合いの訓練ができず、自主訓練のみとなったため例年行われている運営推進会議への報告は今回されていない。消防計画に沿った訓練を年2回実施されており、ご家族・市町村連携のためにも周知してもらおうよう報告することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の留意点、サービス提供、それ以外の質問(困難事例や施設側が困った際)などについて長与町へ訪問し確認、電話での相談など常に協力体制を築いている。	運営推進会議で詳細な報告によりグループホームの実情や取り組みを理解してもらっている。その上で、質問・相談を行っているので、連携と協力体制が取れている。また、地域包括支援センターからの依頼により「認知症サポーター」として近くの公民館で講座を行っていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠せず、天気の良い時は日光浴などを実施している。また、玄関で入り口に人体センサーがありもしご入居者など外へ出ようとすると音で知らせるようにしている。転倒リスクを回避するため、センサーマットを導入しポケット受信機で受信している。導入の際は、ご家族へ説明し同意書で同意を得ている。	日中の玄関は施錠をしていない。グループホームの間取りが共用スペースのホールから玄関が視界に入るよう工夫しているため、出ていく気配を常に気付くことができる。転倒リスク防止のためご家族の同意を得てセンサーマットが置かれている。日常的に行われる研修、月1回の虐待拘束委員会や講師を招いての外部研修などにより、職員の身体拘束についての理解は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて、虐待事例等を周知し、施設内での虐待防止に努めている。また、3ヶ月に1度はユニット会議の際や朝礼時に情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が長崎県権利擁護推進員(基礎課程)を修了しており職員の中に長崎県権利擁護推進員がいるため時期を見て研修会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設長が重要事項説明書及び入居契約書を丁寧に説明している。また、必要書類や必要品に関しては別紙にてお渡ししわかりやすくしている。ご家族からの質問も丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しておりご家族や外部の方がだしやすい場所に設置しているが投函がない。そのため、面会時や何らかの要件時にご家族へ電話、ケアプラン更新時にもご家族の意見を聞く機会を作っている。	意見箱を設置しているが、なかなか投函がないため、日常的に実施している電話連絡時や面会時などにご家族からの意見や要望の聞き取りに努めている。またご本人との会話の中から、食事内容になじみのないものがあることに気づき、食べたいものを提供するなど丁寧に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時やユニット会議など職員から意見や提案を聞く機会を設けている。急用を要することや必要時には、個別面談を設けている。	職員からの意見や提案は、毎日の朝礼時や月1回のユニット会議などを活用し常に聞く機会を持っている。さらに施設長が気がかけて個別面談を行っており積極的にコミュニケーションを図っている。そのことにより職員は安心してより積極的なサービスの提供を行うことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整や希望休などを取り入れ就業環境の整備に努めている。また、プライベートで悩んでいた表情が暗い職員に関しては個別面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最低限の知識や技術に関して、状況に応じ先輩介護職員と一緒に行動し技術など身につけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しているが同業者との交流がない。しかし、居宅支援事業所との交流があるため情報共有を図っておりアドバイス等を頂いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報を元に、ご本人からの話やご家族の話を十分に傾聴し性格など把握を行い他のご入居者や職員と安心して共同生活を送れるようにできるように支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族の不安、要道など思いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い職員と課題分析を行っている。ニーズを見極め、適切な対応が行える様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩ということを前提とし古き時代の良さ、新しい時代の良さなどを会話の中で取り組み持ちつ、持たれつの人間関係を作るよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際や何らかの用件で電話をしたり、かかってきた際に施設での生活状況や課題など報告、相談し共にご本人を支えていく関係作りに努めている。また、ご家族の生活状況の変化についても収集している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活リズムを大切にしながらご本人の日頃の表情、言動に注意し心理状態を想像しながらご家族へ電話や面会、病院受診時にご家族と一緒に過ごしてもらう時間を大切にしている。	コロナ禍によりやむを得ず制約を設けていたが、面会が途切れないよう工夫されていた。病院受診時なじみの場所に行った後、ご本人より、近くに勤めていたとの言葉から「行ってみますか？」と声掛けして寄り道をした。そのときの利用者の笑顔がまた支援の喜びとなりました、とのことであった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係を観察し必要時に職員が、かけ橋の役割の役割になり関係が上手くいくように努めている。また、仲の良いご入居者から声を頂き、笑顔が見られる関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談できる相談窓口となれるよう努めている。相談に対しても活用できる介護サービスの内容について、提案を行う等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人記録にはご本人が発した言葉を記入することで、ご本人の思いや意向を職員全員が把握できるよう努めている。入浴時は1対1になる時間であるため、表情や言動に注意し心理状況を把握するよう努めている。また、申し送りノートに記入し職員間で情報共有を図っている。	入居者が直接の意思表示をできない場合、日ごろのケアで動作や状態からその時の要望を把握し、記録して職員間で共有している。日常の小さな要望に気づかずに不穏へつながることがないように、担当の職員を決めてきめ細かいケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの思いを語る機会を作り、これまでの生活の情報把握に努めアセスメントなどを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残している。また、定期的にあセスメントを行い、残存機能や課題、生活への思いについて現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と職員を中心に月に1度のユニット会議で意見交換を行っている。ご家族には電話や面会時に要望等、聞き取りケアプランに反映をしている。	入居者の担当職員が日ごろの状態を細かく記録しているため、介護計画の更新時にはそれを参考にモニタリングし、計画作成担当職員と他の職員で話し合い、内容の検討を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援や生活の様子、発した言葉、急変時などは詳細に記録し職員同士、情報共有を行うよう努めている。また、急変時などは申し送りノートにも記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望やご家族の意向をその都度できる限り確認し、その時々ニーズに応えることができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会には加入しているがあまり交流がないが以前は看護学生の実習施設として受け入れていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、これまでのかかりつけ医として継続をしており定期受診などの支援を行っている。また、主治医への状況報告や指示を確実に、医療機関との関係づくりに努めている。	入居前からの状況を把握しているかかりつけ医は入居後もできるだけ継続して受診するようにしている。家族と一緒に職員も同行して状態の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないのでご入居者に状態変化があれば主治医に相談し指示を仰ぐように行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室や外来との情報シートを活用し情報提供を積極的に行っており早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、施設として出来ない事の範囲を看取り指針で説明し同意書をご家族へ記入して頂いている。その範囲の中で、主治医と連携しながら対応を行っている。	看取りについては、入居者の家族からの要望があり、職員の経験もあるので医療ケアの必要がなければ施設で対応している。状態に変化があった時点で主治医に連絡して診断できる体制ができており、その後家族に説明をして判断を確認してもらうようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成している。ユニット会議でも緊急時対応について学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回の消防訓練を実施しており日常的に職員間で避難経路の確認と避難時の支援について話をしている。また、火災発生時対応マニュアルを各ユニットに掲示し確認をしている。火災予防のため自主検査表で毎日点検を行っている。	火災時の対応についてはマニュアルがあり、職員間でも日頃から非常時の対応について話し合うなど意識をしている。ハザードマップを確認し、出口近くに水・食料を備蓄するなど災害に備えている。	火災への備えの他に、風水害などを想定した対応マニュアルを作成し、全職員で共有されて自然災害にも万全の備えをされることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の気持ちを忘れずにご入居者に優しい声で穏やかに話すことを心掛けている。また、聞きとりにくいご入居者には裏紙などを使用しコミュニケーションを図るように努めている。	声掛けについては入居者を驚かせたり萎縮させることのないよう心掛けている。不適切と思われる対応があった時は、職員同士や管理者から注意できる関係ができており、速やかに改善できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の意思表示を待つケアに努めている。ご入居者によって選択しやすいよう2択にして自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは決めずできる限りご入居者の意向に沿って、その人のペースに合わせて支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容によりカットを行っている。また、受診時などはおしゃれ着を着用し外出をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はご入居者の楽しみであることから、できる限り家庭的な味付けで美味しく召し上がられるような工夫をしている。また、ご入居者の要望で食べたいものがあれば要望に応えるように努めている。	食事は外注と職員の手作りを上手に織り交ぜて柔軟に献立を作成している。定期的に赤飯やイベント食を出して季節感をだしたり、入居者の得意な料理をふるまってもらったりして変化をつけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し水分の確保が出来る様に支援している。特に水分摂取量が少ないご入居者には好きなものを飲んで頂いたり工夫をしている。また、嚥下状態が悪い方にはトロミ剤などを付け提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。介助が必要な方は全介助及び一部介助、歯ブラシでの磨きが困難な方はスポンジを使用し対応を行っている。また、週1回訪問歯科による職員への指導をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し排泄パターンを把握している。また、できるだけトイレでの排泄ができるようにトイレ誘導や声掛けを行うなどしている。	各ユニットに3カ所あるお手洗いは介助度に合わせて使い分け、入居者の現状にあった適切な支援を行っている。定期的な声掛けの結果、リハビリパンツから自立できた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多いものや状況により刻み食や軟飯など食事形態を変更し対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を決めているが、ご本人の体調や希望によって、曜日や時間をずらすなどして柔軟に対応をしている。	決まった時間以外に入浴したいという希望があれば、職員の勤務を調整してできるだけ対応している。菖蒲湯など季節にあわせて変化をつけ、入浴が楽しみになるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを作ることを心掛け、夜間の安眠につなげている。また、一人一人の体調に合わせて体に負担のないよう日中でも静養時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬剤情報提供書をファイルしているためその都度目的や副作用を確認できるようにしている、もしわからない薬などがあれば薬剤師に連絡を入れ確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や職歴などの情報収集を行い、やりがいや喜びを感じて頂く事の出来る役割活動を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ渦で外出ができないが病院受診などで外出する機会を設けている。	現在は外出ができないため、ベランダでの日光浴や敷地内の散歩など身近な場所のできる範囲で外気に触れるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設内では預からないようにしており必要な物品などあれば会社での立替金で対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には必要に応じて電話が出きるような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に関してはとても明るく、広々とした空間で生活を送って頂いており、庭園には四季折々の樹木を植えている。また、メダカを飼育しておりご入居者が餌を毎日やっている。	共用スペースは椅子や畳スペースが配置され、利用者が思い思いにゆったりと過ごせる場所となっている。職員は見守りがしやすい場所におり、安全面も配慮されている。敷地内には中庭があり、行事の際に活用される他、建物内の日当たり、明るさを確保できるつくりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者一人一人のプライバシーに配慮しご入居者同士が自由に過ごせるようにソファを設置しいつでも安楽にできるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものを持ち込んだりして頂き、安全に過ごせるように家具の配置を考えたりしている。	部屋の入り口には職員手作りで名札が掲示され、室内は利用者の好みの家具がおかれるなど家庭的な雰囲気になっている。夜間のためにポータブルトイレを置いている利用者もいるが、家具調のデザインで部屋になじみ、毎日の清掃で清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物たたみやもやしの根切りなどの家事は、出きる方には積極的にして頂くよう声掛けなどを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101802		
法人名	株式会社サポート		
事業所名	サポートピア葉山【のどか】		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町高田郷2179番地1		
自己評価作成日	令和3年8月17日	外部評価結果確定日	令和4年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4271101802-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

業務優先ではなく、ご入居者のいままでの人生で培った価値観・人生観を尊重するケアを第一に考えている。年々介護度も上がり認知機能の低下、ADLの低下もあるが残存機能を活かし個別ケアを実施している。また、今までの生活習慣を大切にしながらご入居者が安心して自分らしい生活ができるよう支援に努めている。特にコロナ渦の中、外出などでできていないが定期受診時は、必ずご入居者と一緒に受診し一緒に寄り添い気分転換を図っている。また、医療との連携を図り些細な状況でも主治医へ連絡し病状の早期発見に努めている。看取り介護に関しては積極的に取り組んでおり、ご入居者・ご家族も安心して頂けるようしている。施設内に関してはとても明るく、広々とした空間で生活を送って頂いており、庭園には四季折々の樹木を植えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念や方針を各ユニット及び応接室に掲示し常に見えるようにしている。また、朝礼などで復唱し意思統一を図る。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦の前は近隣の幼稚園園児を招き、クリスマス会を行ったり看護学生の実習施設として交流を図っていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族に対して認知症に対する理解やアドバイスをを行っている。以前は認知症サポーター講座の案内などを出していた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ2か月に1回運営推進会議を開催している。コロナの影響で近隣(自治会長や民生委員)の方は控えられているがご家族代、長与町役場職員などから参加をしていただき、質疑応答を設け意見交換など行いサービス向上に努めている。コロナの影響で書面での開催などで意見交換なども行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の留意点、サービス提供、それ以外の質問(困難事例や施設側が困った際)などについて長与町へ訪問し確認、電話での相談など常に協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠せず、天気が良い時は日光浴などを実施している。また、玄関で入り口に人体センサーがありもしご入居者など外へ出ようとするとき音で知らせるようにしている。転倒リスクを回避するため、センサーマットを導入しポケット受信機で受信している。導入の際は、ご家族へ説明し同意書で同意を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて、虐待事例等を周知し、施設内での虐待防止に努めている。また、3ヶ月に1度はユニット会議の際や朝礼時に情報共有を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が長崎県権利擁護推進員(基礎課程)を修了しており職員の中に長崎県権利擁護推進員がいるため時期を見て研修会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設長が重要事項説明書及び入居契約書を丁寧に説明している。また、必要書類や必要品に関しては別紙にてお渡ししわかりやすくしている。ご家族からの質問も丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しておりご家族や外部の方がだしやすい場所に設置しているが投函がない。そのため、面会時や何らかの要件時にご家族へ電話、ケアプラン更新時にもご家族の意見を聞く機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時やユニット会議など職員から意見や提案を聞く機会を設けている。急用を要することや必要時には、個別面談を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整や希望休などを取り入れ就業環境の整備に努めている。また、プライベートで悩んでいたたり表情が暗い職員に関しては個別面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最低限の知識や技術に関して、状況に応じ先輩介護職員と一緒に行動し技術など身につけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しているが同業者との交流がない。しかし、居宅支援事業所との交流があるため情報共有を図っておりアドバイス等を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報を元に、ご本人からの話やご家族の話を十分に傾聴し性格など把握を行い他のご入居者や職員と安心して共同生活を送れるようにできるように支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族の不安、要道など思いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い職員と課題分析を行っている。ニーズを見極め、適切な対応が行える様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩ということを前提とし古き時代の良さ、新しい時代の良さなどを会話の中で取り組み持ちつ、持たれつの人間関係を作るよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際や何らかの用件で電話をしたり、かかってきた際に施設での生活状況や課題など報告、相談し共にご本人を支えていく関係作りに努めている。また、ご家族の生活状況の変化についても収集している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活リズムを大切にしながらご本人の日頃の表情、言動に注意し心理状態を想像しながらご家族へ電話や面会、病院受診時にご家族と一緒に過ごしてもらう時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係を観察し必要時に職員が、かけ橋の役割の役割になり関係が上手くいくように努めている。また、仲の良いご入居者から声を頂き、笑顔が見られる関係構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談できる相談窓口となれるよう努めている。相談に対しても活用できる介護サービスの内容について、提案を行う等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人記録にはご本人が発した言葉を記入することで、ご本人の思いや意向を職員全員が把握できるよう努めている。入浴時は1対1になる時間であるため、表情や言動に注意し心理状況を把握するよう努めている。また、申し送りノートに記入し職員間で情報共有を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの思いを語る機会を作り、これまでの生活の情報把握に努めアセスメントなどを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残している。また、定期的にあセスメントを行い、残存機能や課題、生活への思いについて現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と職員を中心に月に1度のユニット会議で意見交換を行っている。ご家族には電話や面会時に要望等、聞き取りケアプランに反映をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援や生活の様子、発した言葉、急変時などは詳細に記録し職員同士、情報共有を行うよう努めている。また、急変時などは申し送りノートにも記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望やご家族の意向をその都度できる限り確認し、その時々ニーズに応えることができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会には加入しているがあまり交流がないが以前は看護学生の実習施設として受け入れていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、これまでのかかりつけ医として継続をしており定期受診などの支援を行っている。また、主治医への状況報告や指示を確実にし、医療機関との関係づくりに努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないのでご入居者に状態変化があれば主治医に相談し指示を仰ぐように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室や外来との情報シートを活用し情報提供を積極的に行っており早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、施設として出来ない事の範囲を看取り指針で説明し同意書をご家族へ記入して頂いている。その範囲の中で、主治医と連携しながら対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成している。ユニット会議でも緊急時対応について学ぶ機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回の消防訓練を実施しており日常的に職員間で避難経路の確認と避難時の支援について話をしている。また、火災発生時対応マニュアルを各ユニットに掲示し確認をしている。火災予防のため自主検査表で毎日点検を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の気持ちを忘れずにご入居者に優しい声で穏やかに話すことを心掛けている。また、聞きとりにくいご入居者には裏紙などを使用しコミュニケーションを図るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の意思表示を待つケアに努めている。ご入居者によって選択しやすいよう2択にして自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは決めずできる限りご入居者の意向に沿って、その人のペースに合わせて支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容によりカットを行っている。また、受診時などはおしゃれ着を着用し外出をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はご入居者の楽しみであることから、できる限り家庭的な味付けで美味しく召し上がれるような工夫をしている。また、ご入居者の要望で食べたいものがあれば要望に応えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し水分の確保ができる様に支援している。特に水分摂取量が少ないご入居者には好きなものを飲んで頂いたり工夫をしている。また、嚥下状態が悪い方にはトロミ剤などをつけ提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。介助が必要な方は全介助及び一部介助、歯ブラシでの磨きが困難な方はスポンジを使用し対応を行っている。また、週1回訪問歯科による職員への指導をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し排泄パターンを把握している。また、できるだけトイレでの排泄ができるようにトイレ誘導を行っている。重度化されたご入居者には2時間～3時間おきのオムツ交換を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カルピスなどを提供したり食物繊維が多いものや状況により刻み食や軟飯など食事形態を変更し対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を決めているが、ご本人の体調や希望によって、曜日や時間をずらすなどして柔軟に対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを作ることを心掛け、夜間の安眠につなげている。また、一人一人の体調に合わせて体に負担のないよう日中でも静養時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬剤情報提供書をファイルしているためその都度目的や副作用を確認できるようにしている、もしわからない薬などがあれば薬剤師に連絡を入れ確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や職歴などの情報収集を行い、やりがいや喜びを感じて頂く事の出来る役割活動を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ渦で外出ができないが病院受診などで外出する機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設内では預からないようにしており必要な物品などあれば会社での立替金で対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には必要に応じて電話が出せるような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に関してはとても明るく、広々した空間で生活を送って頂いており、庭園には四季折々の樹木を植えている。また、玄関先に観葉植物を置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者一人一人のプライバシーに配慮しご入居者同士が自由に過ごせるようにソファを設置しいつでも安楽にできるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものを持ち込んだりして頂き、安全に過ごせるように家具の配置を考えたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内には居室横に名前を設けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101802		
法人名	株式会社サポート		
事業所名	サポートピア葉山【ほのか】		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町高田郷2179番地1		
自己評価作成日	令和3年8月18日	外部評価結果確定日	令和4年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4271101802-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

業務優先ではなく、ご入居者のいままでの人生で培った価値観・人生観を尊重するケアを第一に考えている。年々介護度も上がり認知機能の低下、ADLの低下もあるが残存機能を活かし個別ケアを実施している。また、今までの生活習慣を大切にしながらご入居者が安心して自分らしい生活ができるよう支援に努めている。特にコロナ渦の中、外出などでできていないが定期受診時は、必ずご入居者と一緒に受診し一緒に寄り添い気分転換を図っている。また、医療との連携を図り些細な状況でも主治医へ連絡し病状の早期発見に努めている。看取り介護に関しては積極的に取り組んでおり、ご入居者・ご家族も安心して頂けるようしている。施設内に関してはとても明るく、広々とした空間で生活を送って頂いており、庭園には四季折々の樹木を植えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念や方針を各ユニット及び応接室に掲示し常に見えるようにしている。また、朝礼などで復唱し意思統一を図る。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦の前は近隣の幼稚園園児を招き、クリスマス会を行ったり看護学生の実習施設として交流を図っていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族に対して認知症に対する理解やアドバイスをを行っている。以前は認知症サポーター講座の案内などを出していた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ2か月に1回運営推進会議を開催している。コロナの影響で近隣(自治会長や民生委員)の方は控えられているがご家族代、長与町役場職員などから参加をしていただき、質疑応答を設け意見交換など行いサービス向上に努めている。コロナの影響で書面での開催などで意見交換なども行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の留意点、サービス提供、それ以外の質問(困難事例や施設側が困った際)などについて長与町へ訪問し確認、電話での相談など常に協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠せず、天気が良い時は日光浴などを実施している。また、玄関で入り口に人体センサーがありもしご入居者など外へ出ようとする音で知らせるようにしている。転倒リスクを回避するため、センサーマットを導入しポケット受信機で受信している。導入の際は、ご家族へ説明し同意書で同意を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて、虐待事例等を周知し、施設内での虐待防止に努めている。また、3ヶ月に1度はユニット会議の際や朝礼時に情報共有を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が長崎県権利擁護推進員(基礎課程)を修了しており職員の中に長崎県権利擁護推進員がいるため時期を見て研修会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設長が重要事項説明書及び入居契約書を丁寧に説明している。また、必要書類や必要品に関しては別紙にてお渡ししわかりやすくしている。ご家族からの質問も丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しておりご家族や外部の方がだしやすい場所に設置しているが投函がない。そのため、面会時や何らかの要件時にご家族へ電話、ケアプラン更新時にもご家族の意見を聞く機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時やユニット会議など職員から意見や提案を聞く機会を設けている。急用を要することや必要時には、個別面談を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整や希望休などを取り入れ就業環境の整備に努めている。また、プライベートで悩んでいたたり表情が暗い職員に関しては個別面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最低限の知識や技術に関して、状況に応じ先輩介護職員と一緒に行動し技術など身につけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しているが同業者との交流がない。しかし、居宅支援事業所との交流があるため情報共有を図っておりアドバイス等を頂いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報を元に、ご本人からの話やご家族の話を十分に傾聴し性格など把握を行い他のご入居者や職員と安心して共同生活を送れるようにできるように支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族の不安、要道など思いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い職員と課題分析を行っている。ニーズを見極め、適切な対応が行える様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩ということを前提とし古き時代の良さ、新しい時代の良さなどを会話の中で取り組み持ちつ、持たれつの人間関係を作るよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際や何らかの用件で電話をしたり、かかってきた際に施設での生活状況や課題など報告、相談し共にご本人を支えていく関係作りに努めている。また、ご家族の生活状況の変化についても収集している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活リズムを大切にしながらご本人の日頃の表情、言動に注意し心理状態を想像しながらご家族へ電話や面会、病院受診時にご家族と一緒に過ごしてもらう時間を大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係を観察し必要時に職員が、かけ橋の役割の役割になり関係が上手くいくように努めている。また、仲の良いご入居者から声を頂き、笑顔が見られる関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談できる相談窓口となれるよう努めている。相談に対しても活用できる介護サービスの内容について、提案を行う等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人記録にはご本人が発した言葉を記入することで、ご本人の思いや意向を職員全員が把握できるよう努めている。入浴時は1対1になる時間であるため、表情や言動に注意し心理状況を把握するよう努めている。また、申し送りノートに記入し職員間で情報共有を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの思いを語る機会を作り、これまでの生活の情報把握に努めアセスメントなどを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残している。また、定期的にあセスメントを行い、残存機能や課題、生活への思いについて現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と職員を中心に月に1度のユニット会議で意見交換を行っている。ご家族には電話や面会時に要望等、聞き取りケアプランに反映をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援や生活の様子、発した言葉、急変時などは詳細に記録し職員同士、情報共有を行うよう努めている。また、急変時などは申し送りノートにも記入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望やご家族の意向をその都度できる限り確認し、その時々ニーズに応えることができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会には加入しているがあまり交流がないが以前は看護学生の実習施設として受け入れていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、これまでのかかりつけ医として継続をしており定期受診などの支援を行っている。また、主治医への状況報告や指示を確実にし、医療機関との関係づくりに努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないのでご入居者に状態変化があれば主治医に相談し指示を仰ぐように行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室や外来との情報シートを活用し情報提供を積極的に行っており早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、施設として出来ない事の範囲を看取り指針で説明し同意書をご家族へ記入して頂いている。その範囲の中で、主治医と連携しながら対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成している。ユニット会議でも緊急時対応について学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回の消防訓練を実施しており日常的に職員間で避難経路の確認と避難時の支援について話をしている。また、火災発生時対応マニュアルを各ユニットに掲示し確認をしている。火災予防のため自主検査表で毎日点検を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の気持ちを忘れずにご入居者に優しい声で穏やかに話すことを心掛けている。また、聞きとりにくいご入居者には裏紙などを使用しコミュニケーションを図るように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の意思表示を待つケアに努めている。ご入居者によって選択しやすいよう2択にして自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは決めずできる限りご入居者の意向に沿って、その人のペースに合わせて支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容によりカットを行っている。また、受診時などはおしゃれ着を着用し外出をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はご入居者の楽しみであることから、できる限り家庭的な味付けで美味しく召し上がれるような工夫をしている。また、ご入居者の要望で食べたいものがあれば要望に応えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し水分の確保ができる様に支援している。特に水分摂取量が少ないご入居者には好きなものを飲んで頂いたり工夫をしている。また、嚥下状態が悪い方にはトロミ剤などをつけ提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。介助が必要な方は全介助及び一部介助、歯ブラシでの磨きが困難な方はスポンジを使用し対応を行っている。また、週1回訪問歯科による職員への指導をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し排泄パターンを把握している。また、できるだけトイレでの排泄ができるようにトイレ誘導を行っている。また、リハビリパンツを排除し布パンで対応しているが便失禁などあればリハビリパンツを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳などを提供したり食物繊維が多いものや状況により刻み食や軟飯など食事形態を変更し対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を決めているが、ご本人の体調や希望によって、曜日や時間をずらすなどして柔軟に対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを作ることを心掛け、夜間の安眠につなげている。また、一人一人の体調に合わせて体に負担のないよう日中でも静養時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬剤情報提供書をファイルしているためその都度目的や副作用を確認できるようにしている、もしわからない薬などがあれば薬剤師に連絡を入れ確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や職歴などの情報収集を行い、やりがいや喜びを感じて頂く事の出来る役割活動を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ渦で外出ができないが病院受診などで外出する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設内では預からないようにしており必要な物品などあれば会社での立替金で対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には必要に応じて電話が出きような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に関してはとても明るく、広々した空間で生活を送って頂いており、庭園には四季折々の樹木を植えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者一人一人のプライダシーに配慮しご入居者同士が自由に過ごせるようにソファを設置しいつでも安楽にできるよう努めている。また、和室もあるため稀に和室で横になられるご入居もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものを持ち込んだりして頂き、安全に過ごせるように家具の配置を考えたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯たたみや食事の下膳などできる方には積極的に頂くよう声掛けしている。		